別紙２

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名　中川恵理子

近年，量販店向け需要や加工・業務用需要の拡大によってロットの大きい荷を扱うことができる大規模市場に荷が集中するようになったことを背景として，青果物の市場間価格差の問題が研究者や実務者の関心を集めている．本研究は生鮮野菜の卸売市場間価格差と市場規模および流通圏の広がりの関係を分析し，流通経路の特定と関係主体の集荷・出荷戦略を検討する作業を通じて卸売市場間価格差を生み出しているメカニズムを明らかにすることを目的としている．

本博士論文は７章で構成される．

第１章では本研究の背景にある問題意識が述べられた上で議論の前提となる卸売市場史がまとめられる．第２章では既存研究のレビューとその批判的な検討が行われる．既存研究は大きく構造論的研究，空間均衡論，市場統合論の３つの系譜に整理され，空間均衡論と市場統合論では現象の抽象化に際して市場の規模や立地による集荷力や価格交渉力の差異が捨象されてしまっている点が，構造論的研究では実際の数値データを用いた価格差の測定や説明の検証が行われていない点が問題点として指摘される．そして，本研究において（１）単独の大規模産地が広域的に独占市場を形成している品目（夏ハクサイ），（２）全国に中小規模産地が分散している品目（冬ハクサイ），（３）複数の大規模遠隔出荷産地と地元市場を中心に出荷する中小規模産地が混在する品目（夏カボチャ）の卸売市場間価格差の発生メカニズムの比較分析を通じてアプローチすることが述べられる．

第３章ではまず夏ハクサイの卸売市場価格が分析される．夏ハクサイでは，長野県が関東地方以西において独占的な産地となっているが，これらの地域における価格の空間分布を規定しているのは JA 長野の出荷戦略であり，広域的には長野県からの輸送費が，同一輸送費圏内では，拠点市場から小規模市場への転送コストが市場間価格差を規定していることが示される．独占的な産地の存在，という単純化された状況の下での市場間価格差の発生メカニズムをシンプルかつ説明力の高い形で提示した点で貴重な学術的貢献であるといえる．

第４章では冬ハクサイが取り上げられる．多数の産地が存在する冬ハクサイの場合は，多くの市場が近郊産地から直接入荷している．分析の結果，冬ハクサイは産地や品種による価格差が小さいため，卸売価格が産地からの距離の影響を受けているのは①近郊産地の生産量が少ないために遠隔産地から入荷することが必要となっている地域（近畿地方・北陸地方）と②単独の一大産地が存在する地域（関東地方）に限定されていることが見出される．また，卸売価格に対する市場取扱量の影響は，出荷団体の戦略ではなく市場の販売

力に規定された形で出現していることも明らかにされる．本章の分析は，産地が分散している状況下で，価格差が生じる具体的な状況を提示した点で重要である．

最後の事例として，第５章では夏カボチャの卸売市場価格が検討される．夏カボチャでは遠隔大規模産地である九州地方の地元市場と主要な出荷先である東京などの大消費地の市場との間で輸送費を上回る価格差が確認される．そして，その原因が，大消費地の市場に出荷されるカボチャが産地側が輸送費を負担しても採算が取れる高品質なカボチャに限定されているのに対して，地元市場で取引されるカボチャは規格が揃っていない個人出荷のものが中心であることによることが明らかにされる．本章の知見は，輸送費や市場規模だけでなく，各出荷主体が，それぞれの出荷戦略に基づいて市場毎に質の異なる品目を出荷していることが価格形成に大きな影響を与えていること，そして，こうした出荷戦略において出荷先市場の地域特性が有力な規定要因となっていること，を指摘した点が重要な成果として挙げられる．

第６章では３事例の比較を通じた考察が行われ，小規模市場では，産地が集中し，共販率が高く，特定産地の流通圏が広域的に広がっている場合には相対的に高い価格となる傾向が強く，遠隔産地が複数存在する，あるいは多数の産地が広く分布している場合にはこの傾向が弱まっていることが指摘される．そして，販売力・集荷力・規模の経済が小さい市場や消費地にとって，多様な集出荷機構の存在が重要な役割を果たしていることが指摘される．本章の考察は，卸売市場価格の形成メカニズムの包括的な説明に向けた貴重な第一歩であり，さらなる説明の精緻化に向け，今後なされるべき研究の展望を切り開いている．第７章では，本研究で得られた知見が整理される．

本研究は利用可能な卸売市場価格データの体系的な収集と解析を行い，各地の卸売市場関係者への聞き取り調査や文献資料を用いて知見を補完することで，具体的な形で卸売市場間価格差の発生メカニズムを明らかにした独創性の高い研究であり，今後の卸売市場政策の方向性を検討する上での基礎的・科学的な根拠を提供した，学術的・社会的意義の高い成果であると評価できる．

よって，本論文は博士（学術）の学位論文として相応しいものであると審査委員会は認め，合格と判定する．